

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	〒287-0102千葉県香取市岩部1095-1		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑に囲まれ静かな環境の中にあり、利用者様の食事は経営者が毎年季節の野菜を丹精込め栽培している。保存食も時期でできるものを切り干し大根やずいき、ジャムは近くのイチゴ農家さんから提供して頂き、その他にもゆずやブルーベリーを利用者様と一緒に作業をし日々の食事に提供しています。保存食作りも、たすけあいでは利用者様の年間行事の一つでもあります。日々のケアは利用者様一人一人を尊重しながら取り組んでいます。年間を通して外出には地域の食事処へ出掛け時々利用者様のなじみの店やなじみの方へお会いする事も楽しみになって頂いています。地域でも年間を通し行事の参加を心がけ地域に溶けこんだ生活を送れるよう心がけています。今年は創立10周年を迎え地域の方やご家族、医療連携、役所、その他関係者のご参加で祝賀会イベント(演芸、ものまねタレント)を行い皆様楽しいひと時を送って頂き普段の表情とは違った姿も見られました。今後も利用者様の五感を刺激できるような事を考え日々努力していきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-17		
訪問調査日	平成27年11月20日		

事業者の経験を活かし、施設の近くに多種類の野菜が栽培されている。訪問時も新鮮な野菜の料理が年齢に合わせ刻み方や色彩も工夫され、新鮮な野菜の甘みも出ており、利用者さんからも美味しいですと完食されていました。ご家族との関係もよくとれ、会議の参加や面会の参加も多いと感じました。地域がら知人の訪問もあり居室で歓談しているようです。介護計画もご家族の意見を反映させモニタリングや12のアセスメント要約を活かし関係者と協議し立案されている。訪問時も穏やかな時間が流れているという落ち着いたある雰囲気でした。職員研修では年2回は参加することが決められ参加された職員には事業者より付加価値の評価があるようです。更に職員と一つになった運営の発展と今後の第三者評価の取り組みも職員全体で取り組まれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングへの掲示をし、勉強会等にて常に周知しながら実践に繋げている	理念は、「明るく寄り添える、第二の我が家の生活を目指します」と掲げ、4つの重点が記されています。理念は、パンフレットやリビングに掲示され、毎月行われる施設内勉強会でも周知を図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事、地域行事への参加や定期的なボランティアの訪問、日用品の買い物や散髪等地域のお店を利用しながら交流に繋げている	買物や散髪等地域のお店を利用したり、施設行事等にも地域の住民の参加や行事ボランティアが入る等、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホームの季刊誌を配布したり野菜等近隣施設へ提供したり地域のボランティアや地域行事への参加等を通し交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会(食事会)、施設行事への参加を通し堅苦しい会議の形式だけではなくより家族が訪問しやすい環境を作ることに取り組みサービス向上に繋げている	運営会議には入居者の半数のご家族が参加されることもあり、介護の改定の情報提供や、普段の生活の様子など説明されている。家族の意見や要望等も記録に残されサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や日々の相談、行事への参加を通し協力関係を築いている	地域行事や市町村連絡会や地域ネットワーク会議等や地域研修会等に積極的に参加し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設内の勉強会や順番性にて外部研修への参加を通し職員の意識を高め拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルが作成され、防止ではなく廃止していることが強調されている。社内研修や外部研修に全員が順番で参加し、職員間での意識を高めて拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会や外部研修への参加、日々のカンファレンスを通し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会や外部研修への参加を通し理解に繋げている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定等の説明はその都度行い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事への参加、状態変化の時には小まめな連絡、面会時には積極的に家族と係る事で信頼関係を築けるよう取り組んでいる	苦情ファイルには些細な事柄も記載されており、主にケアマネが対応している。事例の中ではおむつ代の削減ができないかという声に対し、???	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや日々のやり取りの中で意見を吸い上げ、反映させている	カンファレンスや日々のケアの中で意見は吸い上げられ、施設管理者から代表者に意見が伝わるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間予定の内部研修や個々に積極的な外部研修の参加を進め研修参加状況や自己評価表の実践を通し努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や施設外部研修、自主研修への積極的な参加を進め評価に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の定期的な会議や研修への参加、地域の交流会等への参加を通し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に話を聞きコミュニケーションを図ることで関係作りに取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に話を聞き不安、要望に応じて行ける様信頼関係を作れるよう取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聞き必要な支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々それぞれの話を聞くことで信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時も積極的に家族と係る事で信頼関係を作り定期的な状況報告を行い関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の家族、知人親戚等来て頂ける環境を作り施設行事、地域行事や地域ボランティアの交流を通し支援に努めている	施設行事等に家族や地域の方の参加も多く、地域行事等に出かけて、地域の馴染みの方との交流も図られている。最近では芋煮会に地域の方も楽しんで参加され、また、10周年記念日のイベントには地域の方をご招待している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に寄り添う姿勢を持つことで利用者様同士の関係を職員が係りを持つことで関係性を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の近況報告や情報のやり取りを通し必要に応じ相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別によく話を聞きく事でコミュニケーションを図り不安や要望等くみ取りながら実践に努めている。	入居時に意向を伺い、その後ご家族との話し合いで看取りのケアも確認している。普段の生活では、利用者一人ひとりがにこやかな表情で、個々に向き合い細かな要望も聴きコミュニケーションを図りケアに取り組まれている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からの話を聞き事で安心できる環境作りに取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状況を把握しご本人のペースに合わせながら対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望、個々の職員のかかわりの中情報収集しカンファレンスにて話し合い介護計画に繋げている	12項目のアセスメント要約や24時間モニタリングも行い、利用者や家族の要望も含めケース会議で利用者本人に合ったケア計画を作成、実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々のやり取りの中で情報の共有化を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族や職員とのやり取りの中その時々状況にて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域医療への受診や地域行事への参加外出支援ボランティアとの係りや知人との外出等を通し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院や必要に応じ通院できない方への往診にて地域医療との連携を図りながら、関係を築き支援している	嘱託医である主治医の意見書を書いていたが、地域かかりつけ病院に、診察や往診等の連携が取れ、適切な医療が受けられる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護職員の配置にて支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族との連絡や定期的な面会にて医療機関との情報共有を図り支援に繋がっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連絡を密にし、今後の方向性を話し合い、必要に応じ同意書を頂き、支援に繋がっている	看取りのケアマニュアルは作成されている。入所時に意向の説明も丁寧にされ、必要に応じ同意書を頂き支援に繋がっている。加算が取れない短期のケースの経験から、観察内容などの学びも共有している。今後は、職員のケアや振り返り等を含め日頃から研修等の取り入れが望まれる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や緊急マニュアルを掲示し対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し職員の意識付けも行い、経営者も同じ敷地に居るため必要時には応援を頼める体制を作っている。	定期的な訓練等が行われ、職員等の意識付けもおこなわれている。非常食は2日分保管されている。今後は、地域住民等の参加も望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を心がけ配慮をしている。	一人ひとりの尊厳とプライバシー確保に、職員一人ひとりが気を付け、特に言葉かけに配慮されている。利用者様同士の配慮も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話をきく事でご本人の気持ちを汲み取れるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせながら強制せずにご本人のペースに合わせて頂くよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望を汲み取りながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれの嗜好も配慮しながら対応し、器を変えてみたり、定期的に外食も取り入れ試行錯誤しながら取り組んでいる。	畑で採れた野菜等利用者と職員と一緒に準備したり、一人ひとりに合わせ、切り方や盛り付け、器等も家庭の食事のように楽しみながら食事ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々それぞれの状況に合わせてながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを勧め状況に応じては訪問歯科を取り入れながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々それぞれに合わせながら排泄パターンを把握しご本人の無理のない体制を作っている	紙おむつ、紙パンツ、普通の下着の方もおり、一人ひとりの排泄パターンを大事にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々それぞれの排泄パターンを把握し水分調節や必要に応じ排便を促す対応を施行し日々対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時のご本人の状況に応じ柔軟に対応している	入浴は、本人の希望に沿って行われ、個浴で入浴を楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況を把握しその都度安心して入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に服用している薬を把握し看護師との相談をしながら主治医との連携を図り支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々それぞれの役割を作り生活の中での張り合いを作って行けるよう工夫しながら取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の状況やご本人の状況にて対応し、時にはご家族に協力して頂きながら支援している。	本人の希望を把握し、日常的に外出支援が行われ、家族と一緒に外出されたり外食される方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々それぞれのお小遣いを預かりご本人の要望に応じ対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時々状況に応じ対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら定期的に模様替えをしたり利用者様同士が居心地の良い空間を提供できるよう模索しながら取り組んでいる	ゆず等の季節の果物や花等の飾り付けがされ、居心地の良い居間造りが提供されている。天井が高く光取りもあり落ち着いた空間である。調理室も見え人の動きや声掛けが、安心感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の工夫をし利用者様の状況に応じ配置を変えたりしながら良い空間作りに取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの物を置いたり試行錯誤しながら安心できる空間作りに取り組んでいる	家族や本人と話し、利用者一人ひとりの希望や好みを活かし、安心できる空間作りに取り組んでいる。家族の写真が貼られたり、リハビリのための器具も持ちこんでいる方もおりました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や部屋へは掲示をしたり声掛けすることで習慣になってもらいながら自立した生活を送れるよう支援している		